

目的 どのような鳥がどれくらい見ることができるか調べる

調査期間 2024年1月1日～12月31日

調査範囲 三和ゲートから入って南側、誘導灯手前までの作業用道路付近

調査方法 ①、ラインセンサス 作業用道路を歩きながら一周し出現地、種名、数、行動等を調査

②、スポットセンサス ①の継続で①の中に設定した定点5カ所に10分間とどまり出現地、種名、数、行動等を調査

調査回数は1～2回/月、調査時間は午前中を目標とした 所要時間は1回あたり2～3時間程度目安

調査結果

・2024年は前年と同じ計40種確認 → 詳細下記リスト

・4～7月にかけての種数、出現頻度の増加傾向は → 下記グラフ

夏鳥の渡来、通過や留鳥の求愛、餌探などの繁殖行動で出現が目についた為と推測します

・8月の出現の減少は猛暑の影響と推測します

・黒松が育つということはその土地に枝葉を伸ばすことになりませんが裏返すと草原が減少することです

その変化が鳥について当てはめると

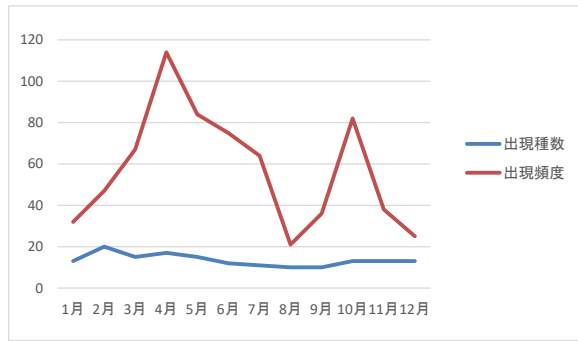
草原を住処にする鳥(代表ヒバリ)が減り、森林を住処にする鳥(代表シジュウカラなどのカラ類)が増える様推移するということです

その変化が進行中の様ですので今後も継続し観ていきたいと思えます

現在のヒバリの主な確認場所は黒松の植林地の東隣の草原上空で鳴きながら飛んでいる姿が大半です

・今回の調査結果は海岸林に生息する鳥全てを網羅するものではありません、調査時間に偶然居合わせた鳥の記録程度と理解して下さい

月別出現種数・頻度 グラフ



月別出現種数・頻度

調査月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
出現種数	13	20	15	17	15	12	11	10	10	13	13	13
出現頻度	32	47	67	114	84	75	64	21	36	82	38	25

2024年確認鳥類リスト

種名	タイプ	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
キジ	留鳥	●	●	●	●	●	●				●	●	
オオハクチョウ	冬鳥										●		
キジバト	留鳥		●	●	●	●	●	●	●	●		●	●
カワウ	留鳥		●						●		●	●	
ササゴイ	夏鳥					●							
アオサギ	留鳥		●										
ダイサギ	留鳥							●			●		
カッコウ	夏鳥					●							
ウミネコ	旅鳥					●							
10 ミサゴ	留鳥		●	●		●				●			
トビ	留鳥	●	●	●		●				●		●	●
ハイロチュウビ	冬鳥		●										
ハイタカ	留鳥		●										
オオタカ	留鳥												●
ノスリ	留鳥	●	●		●								
ハヤブサ	留鳥									●			
モズ	留鳥				●	●	●	●	●		●		●
オナガ	留鳥							●					
ハシボソガラス	留鳥	●	●	●	●					●	●	●	●
20 ハシトガラス	留鳥		●	●	●				●			●	●
クイタダキ	留鳥or標鳥		●										
ヒガラ	留鳥		●	●									
シジュウカラ	留鳥	●	●	●		●	●		●		●		●
ヒバリ	留鳥	●	●	●	●	●	●			●			
ツバメ	夏鳥			●	●	●	●	●	●	●			
ヒヨドリ	留鳥			●	●	●					●	●	●
ウグイス	留鳥	●		●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
メジロ	留鳥				●								
オオヨシキリ	夏鳥				●	●	●	●					
30 セッカ	夏鳥				●								
ツグミ	冬鳥		●	●	●								
ノビタキ	夏鳥				●								
スズメ	留鳥						●	●					
ハクセキレイ	留鳥	●								●	●	●	●
カワラヒワ	留鳥	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
マヒワ	冬鳥												
ベニマシコ	冬鳥	●	●									●	●
ホオジロ	留鳥	●	●	●	●	●	●	●		●	●	●	●
カシラダカ	冬鳥	●	●										
40 アオジ	留鳥	●	●	●	●	●	●	●		●	●	●	●
種数		13	20	15	17	15	12	11	10	10	13	13	13
出現頻度		32	47	67	114	84	75	64	21	36	82	38	25